

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 豊田和司

本号内容

1. 国スポ中国ブロック大会 (08/01-03 倉吉体育文化会館)
2. 大邱・広島学生山岳交流 (08/09-11 三倉岳)
3. クライミングスクール (07/06 三倉岳)
4. 岩稜歩きスクール① (07/20 寂地峡)
5. 初級沢登り研修会 (07/27 犬戻峡)
6. 岩稜歩きスクール② (08/24 とちが谷)
7. 岳連短信 (寄贈御礼、7-9 月の予定)

1. 国スポ中国ブロック大会報告

指導部 錦織 宏美

第79回国民スポーツ大会のブロック予選会が鳥取県立倉吉体育文化会館で、中国5県の各チームがブロック突破(成年男子2枠、少年男子2枠、成年女子2枠(少年女子は予選免除))を賭けて、猛暑の中、死闘を繰り広げた。

結果的には、健闘したものの残念ながら各種別ブロック通過を果たすことはできなかった。来年のブロック通過に向けて選手強化には当連盟としてもしっかりサポートを行っていききたい。

種別	リード	ボルダー	総合	選手	監督
成年男子	5位	5位	5位	延近陸空斗、 末広竜都	延近昌彦
少年男子	3位	4位	3位 タイ	梅田一真、 加藤陽翔	妹尾涼子
成年女子	3位	3位	3位	山下真由、 錦織美里	錦織宏美

少年男子監督談

出場チームは高校生も多い中、広島は中学3年生2名でしたが、選手は堂々と戦い抜きました。初めてのブロック予選でありながらも、情報交換を積極的に行い、持てる力を存分に発揮してくれました。今後の更なる飛躍が楽しみです。

成年男子監督談

結果として残念な結果となりました。1日目のリードでは実力が発揮できず、2日目のボルダーで挽回を目指したものの、高難度の課題で完登ポイントを積み上げることができなかったが、2名とも最後まで諦めずに挑み終わったことは今後に繋がる経験になったと思います。

成年女子監督談

1日目のリードで2位以内につけることでブロック通過を優位に進めたかったが結果を選手に残させることができなかったことが監督としては悔しい思いでいっぱい。古傷を痛めて追い込み練習中ができなかった選手もいる中、少年種別から長年ペアを組む選手2名が最後まで全力を尽くして戦ってくれたことに感謝。今回、トレーナー帯同があったことで選手も監督も大変心強かった。忙しい中、帯同していただいたトレーナーさんにも感謝。

トレーナー談

このたび広島県チームの一員として、共に戦えたことを誇りに思います。このような機会をいただき、関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。自身が、スポーツクライミング、さらには国スポのトレーナー帯同が初めてのため、うまくイメージできない点もありました。各監督のお気づかいや、選手の協力もあり、大会を終えることができました。スポーツクライミングは、まだまだ発展段階の競技であり、『登る』の質を向上させるため、

今後はトレーニングやケアなど、スポーツ科学や医学サポートも取り入れ、充実させながら、競技力の強化へとつなげていかなければならないと感じています。その一端を担うべく、新しい情報を取り入れながら研鑽を続け、日々の活動に取り組んでいきたいです。

2. 日韓大学生交流報告

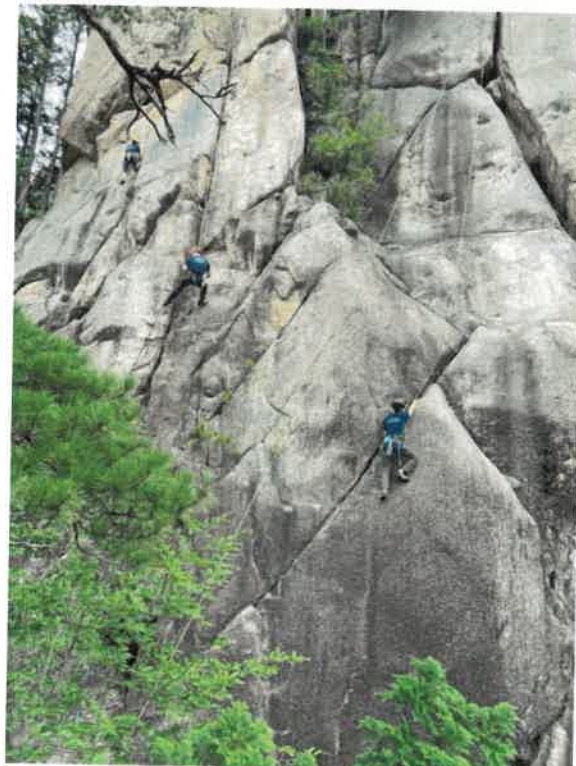
国際部長 加登本 仁

2025 年 8 月 9 日 (土) ~ 8 月 11 日 (月)、2 泊 3 日の日程で、大邱慶北学生連盟 21 名 (大学生 12 名、運営指導 9 名) を招いての学生山岳交流が行われました。昨年 10 月、大邱で行われた八公山山岳祭に参加した際に、若年層の交流への期待が寄せられていました。その後、大邱学生山岳連盟に大学生交流の計画を打診。しばらく連絡が途絶えていましたが、6 月になって上記日程での広島訪問の意向が伝えられました。8 月までの限られた時間で、しかもインターハイと重なる日程で実施は困難かと思われましたが、山田会長はじめ役員の皆様、日韓交流に携わってこられた会員の皆様、及び森本部長はじめ指導部の皆様の全面的なご支援により、開催することができました。この場をお借りしてご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。以下に概要を示します。

8 月 9 日 (土)

8:30 に下関国際フェリーターミナルに到着するご一行を、マイクロバス (芸陽バス赤塚さん、個人会員・通訳李京子さん) とワゴン車 (加登本)、軽トラック (福山山岳会・福原不二雄さん) の 3 台で出迎え。小雨の中、予定通り合流し三倉岳キャンプ場に向かう。11:30 三倉岳キャンプ場に到着し、昼食の弁当を配布。簡単な開始式を行い、13:00 にキャンプ場を出発、源助崩れにアプローチする。塩田さんをはじめ 4 名の指導部の方々が午前中から準備をしてくださり、3 つのルートでクライミングを体験した。幸い雨も降らず、16 時までしっかりと活動できた。大邱の学生もレベルが高く、慣れた様子で登攀を楽しんでいた。広島の学生はクライミング初体験であったが、全員が挑戦し、得難い経験をすることができた。17 時にキャンプ場に戻るも、

夜からは警報級の大雨予報であり、テント泊を取りやめ小栗林集会所に全員退避し、そこで夕食と宿泊をすることとなった。翌日予定していた沢登りも危険だと判断し、中止を決めた。代替案には観光やショッピングなど複数案が出たが、登山交流という目的を踏まえ、カッパを着ての三倉岳登山に変更した。





夜は集会所で一堂に会し、広島からはお好み焼きを振る舞いながら交流会を行った。歓迎セレモニーでは、山田会長、大邱慶北学生山岳連盟専務理事のキムドング氏による挨拶に加え、広島・大邱双方の学生代表による挨拶が行われた。

8月10日(日)

昨夜から大雨が続き、予定を三倉岳登山に変更したものの、出発できる状況ではなかった。9時には小雨になる予報で、朝食を済ませ、集会所で待機しつつ準備をする。森本指導部長が到着し、三倉岳登山を3隊編成で行うこと、危険箇所を避けて夕陽岳ピストンとすることを確認した。集会所からキャンプ場に移動し、10:15に入山、11:40夕陽岳登頂、13:00下山完了。展望は無かったが、三倉岳の岩肌を味わい、滝を横目に雨天登山を楽しむことができた。



3.



下山後、キャンプ場から集会所へ移動し昼食をとる。冷えた体を癒しに、宮浜温泉（べにまんさくの湯）で入浴をすることに。大雨の中の移動であり、山道がいつ通行止めになってもおかしくない状況であった。体を温め、途中ゆめタウン大竹で買い物。夕食の食材（サムギョプサル）を大量に買い込んでおられた。通行止めギリギリのタイミングで集会所に戻り、昨晚同様の交流会が行われた。学生もクライミングや登山を経て緊張もほぐれており、翻訳アプリを使ったり英語を使ったりしながら活発に交流していた。

8月11日（月）

昨晚から国道186号が通行止めとなっており、迂回での移動を強いられることとなった。5時に起床、朝食や撤収を済ませ、6:15に集会所を後にした。雨天の中、最終日は宮島観光を行った。厳島神社を参拝し、大聖院を経て宮島散策や食べ歩きを楽しんだ。この間、帰路の高速道路の通行止めが判明し、帰りのフェリーに間に合うよう、できるだけ早く広島を発つ必要が生じた。宮島口の茶屋わたやでお別れ会をするも、簡単なあいさつと写真撮影にとどめ、12時過ぎには宮島口を出発した。下関までの移動も通行止めにより困難を極めたが、プロドライバー赤塚さんの経験と勘による道選びに従いながら、なんとかフェリーの時間までにご一行を下関まで送り届けることができた。



広島大邱学生山岳交流をふり返って

初めてとなる大学生の日韓登山交流を無事に終わることができました。ご協力いただいた皆様には改めて感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。25年前に高校生として参加した日韓交流ですが、今回このような形で関係を継続できたことを大変



うれしく思います。そして今回参加した双方の学生を中心に、今後も交流が続くことを願っています。私自身の反省点は山ほどありますが、国際部の皆様、指導部の皆様、そして会員の皆様の知恵と経験に学びながら、準備の段階からとてもワクワクしていたことを覚えています。やらなければいけない仕事に追われる日々の中で、久しぶりにやりたいことに全力投球する自分に出会えた気がします。これからも山岳文化を通した日韓交流の懸け橋となれるよう努めていきたいと思っています。大邱には大学卒業後も「学生山岳連盟」という組織があり、OB が後輩たちの指導や支援をする文化があります。広島でも、現役部員だけでなく OBOG の組織を作り、交流を続けていけたらと思いました。来年度は大邱で、学生山岳交流が実現できるよう計画を進めていきたいです。その際はまたお力添えのほど、よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

参加学生の感想

安田大学1年 井上さくら

今回はとても貴重な経験をさせていただきありがとうございました😊クライミングに大雨の中での登山となかなか経験できない活動ができ、韓国の方々ともたくさん触れ合うことができて心から楽しかった、参加してよかった、と思っています。日韓の文化の違いや互いに言葉が通じにくい場合でもコミュニケーションはとれるということを知ることができました！！今回は翻訳機を使うことが多く相手によっては英語での会話となっていたので次回までに韓国語を少しでも話せるようになりたいと思います！また来年も交流があることを願っています！ぜひ来年も参加したいです！ありがとうございました！！😊

安田大学2年 相川まりな

今回の交流会で私は韓国人と関わるのも話すのも初めてで、とても緊張したり、どんなふうに話したら良いかわかりませんでした。しかし韓国人は全員とても優しく、翻訳機を使って質問を沢山してくれたり、歩み寄ろうと会話を考えてくれたり、プレゼントも沢山してくれているところも見て、一生懸命で頑張って

いるところにとっても感動しました。初めての体験が多くて、不安になる気持ちもありましたが、韓国人も安田の友達や1年生もみんなが優しく韓国人と関わるのもお話しするのとても楽しくて、良い経験になりました！本当にこのような素敵な機会を与えて下さりありがとうございました！

安田大学2年 大谷美遥

3日間ありがとうございました！韓国の方との交流、クライミング、雨の中の山登り、リゾットやホットサンド作りなどなど初めての経験をたくさんすることができてとても楽しかったです。韓国ドラマや K-POP が好きな影響で韓国の方との交流に元々興味があり、いつかお話ししてみたいと思っていたのでとても嬉しかったです。学生の方も指導や付き添いの大人の方も皆さん優しく、たくさん話しかけてくださったので色々なお話をすることが出来ました！韓国の学生さん自身のお話や韓国の文化を知ることができたり、私自身の話や日本の文化を教えたりなど、本当に楽しい時間を過ごすことができました。また、お互いの言語を教え合う場面もあり、本当に貴重な体験をすることができました😊機会があればぜひ大邱に行ってみたいです💖今回のイベントを無事に楽しく終わらすことができたのも、先生方・指導者の方々が計画・話し合いをしてくださっていたからだと思います。本当にありがとうございました！今回の思い出は一生忘れないと思います😊

安田大学1年 吉川紗羅

2日間ありがとうございました。1日遅れての参加でしたが、皆さん、暖かく迎えてくれました。山登りは雨が強くて大変でしたが貴重な経験ができたのでとても良かったです。韓国料理もとても美味しかったです。今回は少し韓国語を勉強したつもりでしたが、実際に会話してみると全然通じず勉強不足を痛感しました。なので大邱に行くまでにもっと勉強してハングルで韓国人と話せるように頑張ります。大邱でまたみんなと登山ができるのをとても楽しみにしています。次はクライミングもしたいです。今回このような企画を催してくださりありがとうございました。最高の2日間になりました。

3. クライミングスクール報告

指導部 塩田 徹

第4回 7/6(日)山城:三倉岳 源助Ⅱ峰人数:13名
(スタッフ含)酷暑の為、アプローチに時間をかけました。石斛をとらないで、10a、十六夜.8、白日夢.9の3本のうち2本の課題を休憩をとりながらトップロープで確保した状態で擬似リードクライミングとリードビレイの講習をしました。色は匂えとでムンターヒッチでセカンドビレイを行い、途中フリクションヒッチでロープ登高に切替登りました。ラッペリングでラッペルも行いました。

感想 H. K

本格的に登山を始めてから約5年、知人からクライミングスクールのことを教えていただきました。新しいことにチャレンジしようと、夫婦で申し込みました。

第1回目のスクール。全くの初心者である私たち夫婦。ほかの参加者はほとんどの方が少なからずクライミングの経験がおありのように感じました。「ハーネスを付けて。」と言われても一回付けただけだったので焦って間違える。「エイトノットを作りましょう、まずは八の字を作って...。」と言われても、「エイトノット=eight not=八ではないじゃないの...?」ラペリング、ビレイなどなど、用語の意味が分からないし覚えられない。

第3回までにいろんなカタカナの用語が出てきたけど覚えられない。次々と新しいロープワークを習い、ロープを購入して家で復習するが、夫婦とも初心者なので正解が分からない。

そして、第4回の講習を迎えました。場所は今回も三倉岳、源助崩Ⅱ峰です。まず最初にテーピングを手巻いてジャミングの練習。クラックに手を入れて手のひらをくの字に曲げて支点を作る。岩肌が手に食い込んでくるのももちろん痛い。痛いからくの字をやめてしまう。やめると支点にならないから身体を支えられない。痛さとの戦い...いつか慣れるのでしょうか。

続いては、宙づりになった時にロープを登っていく練習、登り切ったらセカンドビレイの練習、そしてロープを掛け替えて懸垂下降をする練習です。(用語や

表現が間違っていたらすみません。)

他の方が登られている間にクレムハリスト(多分)とマッシュアトレス(多分)の練習をしたおかげで、宙づり状態から登るのは意外とスムーズにできた気がします。ただ、オーバーハング気味の所で岩にロープが当たっていて、そこでスリングを上にはずさねばならなかった時、ロープと岩の間に手が挟まって擦り剥くのではないかと、それがとても怖かったです。

登り切ってセカンドビレイに移行する時のロープワーク、インラインエイトノットは家でしっかり練習した甲斐があって上手くできました。しかしムンターヒッチは、カラビナ手前のロープを掛けるか、奥側を掛けるかが家の練習と違ったので、上手くできませんでした。

セカンドビレイは、講師の塩田さんがクライマーだったこともあり、スムーズにできたと思います。

次の懸垂下降に向けての掛け替えの練習。丁寧に教えていただきながら行いましたが、ミュールノットをよく分かっていなかったのと、お腹が空きすぎて言われるがままに行ったので、あまりよく覚えていません。すみません。懸垂下降は上手くできたと思います。

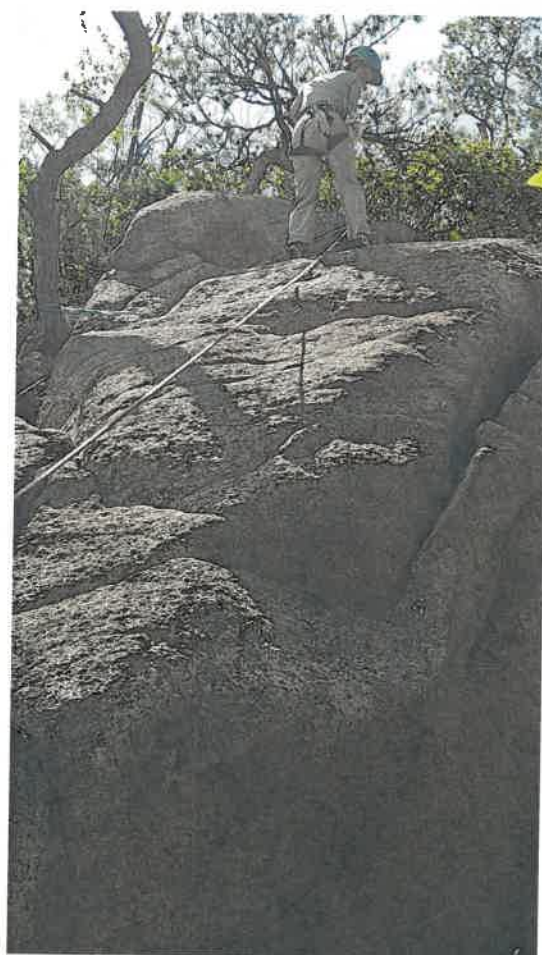
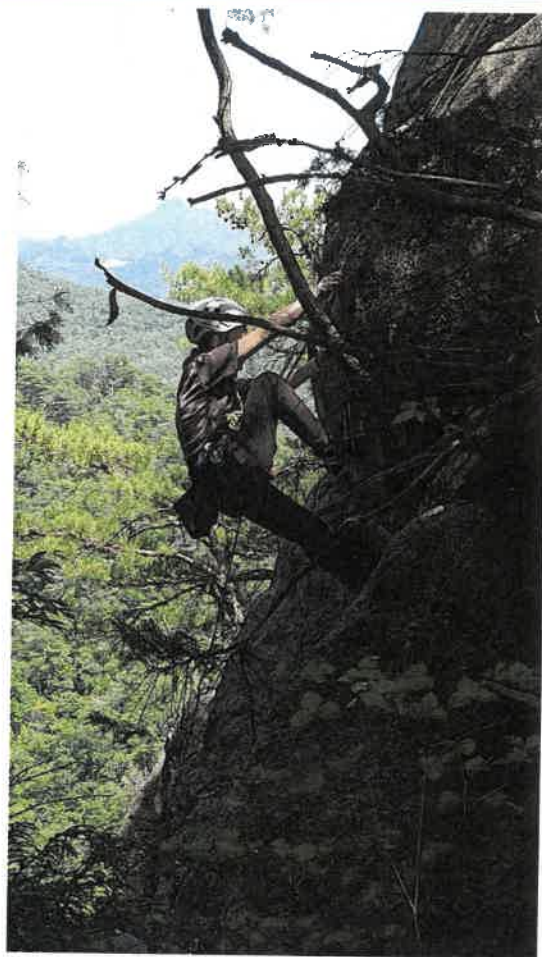
その後、遅い昼食を食べて「白日夢」というルートに挑戦しましたが、2メートルぐらいしか登れませんでした。4回目の講習はここで終了です。

毎回できないことが多く、数日前から緊張してドキドキしながら講習当日を迎えています。講習が始まると無我夢中、初心者とは言え、ほんの少ししか登れない自分に落ち込みます。登山はゆっくりでも頑張れば頂上にたどり着けますが、クライミングはそうはいかないので、登れない悔しさを抱きながら帰路に着きます。帰りの車中は夫婦で反省会です。

でも、クライミング中に「ガンバ!」とか「行けるよ!」とか「ナイス!」など声を掛けてもらって「よし、もう1回チャレンジ!」と思って頑張れます。この歳になって大きな声で応援してもらって、新鮮でとても嬉しく感じました。「もう駄目です...」と言っても「まだまだ!」と簡単にはやめさせてもらえないスパルタ?なところも学生時代の部活を思い出して気持ちが若返るようでした。講師の方々や他の生徒さんともお話しできるようになり、それがとても楽しく、また

刺激を受け勉強になっています。

残り4回も休むことなく参加して、しっかり上達できるよう頑張りたいと思います。





(写真提供 塩田 徹)

4. 岩稜歩きスクール報告①

指導部担当副会長 森本 寛

第4回 7/20(日)、山城：寂地峡人数：16名(スタッフ含)

7/20(日)第4回目は、初めての沢登りの講習を行ないました。講習場所は受講生の習得状況を判断し寂地峡に変更しました。寂地峡の駐車場に集合して、ロープワークの講習後に入渓しました。F6をセカンドビレイにて確保し、F7はフィックス通過で遡行しました。昼食後に脱渓し遊歩道にて下山しました。

感想 永井 辰憲

登山を始めて3年目になります。縦走が好みなのですが、体力以外は足りない点が多く、安全登山に必要な装備・技術の基礎が学べればと思い、当スクールに申し込みました。

7/20(日)は沢登りの初回。とちが谷の予定でした

が、講師の先生方の下見を踏まえて、寂地峡に変更となりました。

集合場所にて、バタフライノットの例、エイト環とATCの比較と摩耗時のリスクについて学んだ後、移動して、木馬トンネルの先から入渓しました。

班員内で唯一沢登りが未経験だったため、K先生が最初に足運びの基本を教えてくださいました。ゴロゴロした沢底や小滝での足置きなど、足裏で探りながら一步一步踏み出す感覚は沢独特でした。淵ではザックを浮き輪代わりに引っ張っていただく体験もしました。Tさん、ありがとうございました。

F6では、セカンドビレイの復習。セルフビレイの位置が立木に近すぎて、セカンドの確保がしづらくなったのは反省点です。

F7上部では、設置いただいたフィックスロープをマッシュャートレスで登る。足場の苔を落とす、身体のもっていき方、改善できる点は多そうでした。昼休憩では、Kさん、Iさんに100均ボトルの有用性を教えてくださいました。ゴミ入れにも役立ちそうです。

初の沢登りには感動もありました。透明な水面にゆらめく水底、目前に迫る滝、ゴルジュや木々に囲まれた空間の美しさ、岩に泰然と佇むニホンヒキガエル…。

いずれは、この先の上流部や犬戻し峡の方もトライできればと思います。ロープワークに習熟できましたら、先生方・先輩方、どうぞよろしくお願いいたします。まずは次のスクールに向けて、家の物干しで練習して参ります。

感想 K.T

6月のスクールでは体調不良で終日参加ができなかったため、実質2ヶ月ぶりの参加になりました。またスクールでは沢登を初めて体験しました。

4月からのスクールでは、天気にも恵まれなかったのですが、今回は天候にも恵まれ、絶好の沢登り日和でした。

寂地峡は初めて来ましたが、川の流れも思ったより速く、慎重に進まないと転びそうに感じる程でした。また実際にロープワークを実践しながらの岩場登りは、実際に教えられたロープワークを2か所の岩場で実践し、貴重な経験ができました。

自身は教えられたロープワークを習得しきれていなかったため、予習復習の必要性も改めて感じさせてくれた1日でした。

8 月も沢登りに備えて予習して臨みたいと思います。



(写真提供 久保田 征治)

5. 初級沢登り研修会報告

指導部担当副会長 森本 寛

7/27(日)山城：犬戻峡人数：23 名（スタッフ含）受講生の経験値にて 3 班に分かれて行動しました。沢登りの経験値が一番多い A 班はキャンプ場から直ぐに入渓し、経験値が A より少ない B 班と初心者 of C 班はロープワークの講習後に入渓しました。班毎に確保の方法を変えながら、遡行しました。脱渓後は遊歩道にて下山しました。

感想 佐々木 憲治

外気温が高い時期の山トレは頭を悩ます。

今年は梅雨明けが極端に早く歩荷をすれば暑さでへろへろ下山、ロードランをすれば朝方にも拘わらず熱中症になり歩道にへたり込み動けなくなる有様、ではエアコンの効いたスポーツセンターでと思いランニングマシンで走ると飛び散る汗の清掃でまた汗だくになる始末。岩に関しては 2ヶ月前に行った小川山以来登っていない。この研修1週間後には山行、何かしなくちゃと言うことで焦る。そんな時、やっぱ暑い夏は沢でしょ！とフレーズが頭をよぎり涼しい沢登研修にトレを兼ねて参加することにした。

研修生を経験に応じて？3チームに分け、私が属するチームは生徒5名に講師3名の豪勢な構成で観光案内所横



から入溪。最初はテクテクと河原歩き、途中堰堤を越えてまた河原歩き、F1 5mと小滝を直登したりへったり暑くなれば川につかりながら遡行。

暑くもなく寒くもなく、おまけに天敵アブもいないので快適である。

途中塩田 CL から休憩の掛け声、昼食？沢での楽しみの一つである真夏のカップ麺とテルモスに手をかけるが食べる時間あるものかと悩んでるうちに出発の合図。一瞬暖かいカップ麺をすすする味覚が舌をよぎる。残念である。

F8 まで淵を泳いだりへつった後にラッペル 5mここはムンターで降下するとクライマックスの F9 犬戻しの滝が現れた。左岸のフィックスロープに幅広のナイロンスリングにハイスト、6mmロープスリングにプルージックをセットして登るが 8mmの固定ロープと相性の悪いこと悪い事。効いてないかも？タイブロックをセットされる方もいて、アッセンダーを持ってくれば良かったと思った。次は F10 三段滝、同じ様に右岸にフィックスロープがセットしてありデージーチェーンにビナ 2 個+固定ロープのセットで登り始めた。最初の間支点に、お〜岩の割れ目にストッパーがセットしてあるで〜え、それも直ぐ横に立クラックがあるのにカムを使わないでわざわざストッパーをセットしてあるお姿が美しく感動ものである。沢では支持力に疑いのある錆びたリングボルトやハーケンばかりなので、ピッタリ決まったストッパーを見ると安心感が違う。全員が登り終えた時点で午後 2:00 と時間ざれとなりここで出溪遊歩道へ向う。後は歩道をテクテクと駐車場に向けて下り終了となった。アルパインのトレとしてはビントがずれているかもしれないが、いやずれているがこれで大丈夫と無理やり思いたい。最後に貴重な晴れの休日に自主山行があろうに押してまで同行していただいた講師の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

感想 福山山岳会 萩 美穂子

沢登り研修会に参加し、ロープワークを学ばせて頂きました。ロープワークを学ぶ機会など余りなく、自分にとっては危険、無理だと今まで諦めていた山にも、技術を身に付ける事で挑戦出来る可能性が広がる事がわかりました。更に技術習得に邁進し、まだ見ぬ絶景に出会いたいと思いました。ありがとうございました。





(写真提供 久保田 征治)

(写真提供 森本 覚)

6. 岩稜歩きスクール報告②

普及部担当副会長 森本 覚

第5回 8/24(日)山城:とちが谷人数:17名(スタッフ含)

8/24(日)第5回目は、7月に続き沢登りの講習を行いました。講習場所はとちが谷に行きました。ここは滝が続くので、登りは連続でのフォロワーの確保と下りは連続での懸垂下降の講習を行ないました。

感想 西村理恵

8月岩稜歩きスクールは、とちが谷沢登りでした。4月から学び始めたロープワーク。結び方を覚えるのに精一杯、ラッペルやセカンドビレイなど新しい道具が増えるたびに扱い方を覚えるのに精一杯。とにかく身体に覚えこませるため、少しずつでも習った結び方や動作の一連の復習…。「単純に手順を覚えるだけではダメ」…本当にその通りで、状況に応じて何をすれば良いのかがわからないと、覚えた結び方や道具の使い方も全く意味を成しません。それでも、回を重ねるごとに少しずつ次は何をすべきかをイメージできるようになったり、経験した状況を振り返り、なぜその声かけをするのか、動作が必要だったのかを想像しながら復習できるようになりました。

そうして迎えた8月のスクール沢登り。入渓から一つ目の滝に向かうまでの間、緊張で異常に喉の渇きを覚えました。部屋の中で1人で行う練習とは違い、常に足元の状況を見極めながら、相手の状況に注意を払いながら、次にすべきことをイメージしながら…視野を広げなければ。

セカンドビレイでは、クライマーの姿が見えない場合や合図の声が届かず登り始める場合もあることを想定し、先にビレイデバイスをセットする判断、確保しながらも次の作業が行いやすいようロープを整える…常に先読みしながら対応できる準備をする、情報処理と判断の連続。ビレイしてもらいながら登る際は、スタッフの方や仲間がいることが心強く、焦らず平常心を保ちながら心をけがしました。

連続してのラッペルでは、アドバイスの通り、足を支持面に対してなるべく垂直に置くように。身体を傾けて重心の位置を意識しても予想外にロープが滑らず降りていけないため、確保しつつもロープを送る必要があったり、どこに足を置くか、どの方向に降りていくかの見通しを持ちながら降りるなど、体からの感覚を掴んで次の動きに繋げていくのが面白かったです。

その場で指示されたことだけをこなすだけだった春に比べれば、スタッフの方からの説明を状況と繋げて理解できるようになってきたことは、自分の中では少し成長を感じられた点です。また、スタッフの方の

熟達した無駄がない所作を見るにつけ、山での厳しい状況でも自分も仲間も安全に行動できるためには、責任を持って正確さを追求していかなければならないなという気持ちにもなりました。引き続き、覚えたことを忘れず、理解を深めていけるように努力したいと思います。

今回も、スタッフの皆さんの丁寧なご指導と安全への配慮により、全員が目標の滝まで到達することができました。感謝いたします。ありがとうございました。

感想 門司 仁美

令和7年8月24日(日)、窓ヶ山の八幡川支流の「とちが谷」に沢登りに行ってきました。

私は前回の沢講座を欠席していたので、今回の講座の前に森本さんから送っていただいた動画を視聴し、また前日にはクラスメイトのIさんと山で実地練習をして臨みました。

入渓は集合場所の魚切ダム駐車場から徒歩ですぐ。歩き始めてすぐに、滝が次々に現れました。

先頭を松本さんが登って各滝の上部に支点を構築してくださいました。受講生は各自が持参したロープ(30メートル)で繋がります。支点まで登ったら、次に登ってくる登攀者を確保するシステム(セカンドビレイ)を作ります。人数が多いのでビレイの準備も早くしないとイケないし、後続者の安全を確保しないとイケないし、緊張の連続でした。久保田さんから、「ビレイの体勢を取る際にはセルフビレイに思い切って体重をかけるよう」ご指導いただいたおかげで安定してビレイをできるようになりました。

連続で滝に登攀したところで本日の折り返し地点。帰りは登ってきた滝達を懸垂下降で連続下降しました。滝の上りも緊張しましたが、下りは苔のせいで滑りやすく、コーチの声掛けを受けながら慎重に(必死に)懸垂下降で降りてきました。

今回は人数が多く待ち時間が発生はしましたが、上り下りともに滝が連続するコースで、今までに教えていただいた技術を即実践できるととても良い一日でした。特に事前の動画でのフォローがありがたかったです。何回も視聴して確認できました。

この講座もあと3回になりましたが、森本さんから頂いた「手順を覚えるのではなく、自分が今、どのシチュエーションか!今、何をすべきなのか!という事を整理して理解しないとダメです。」というご助言を思い返し、今後に生かしたいと思います。今回もありがとうございました





(写真提供 久保田 征治)

(09/01) 広島山稜会『峠通信』794 (8月号)

2. 7月～9月の行事予定 (実施済も含む)

07/23 (水) 新イベント検討会

07/24 (木) インターハイ総合開会式 (県立体育館) 山田・豊田

07/27 (日) 沢登り研修会 (?)

08/01-03 (金-日) 国スポ中国ブロック大会 (倉吉体育文化会館)

08/02 (土) 中国ブロック連絡協議会

08/05-09 (火-土) インターハイ (深入山他)

08/09-11 (土-月祝) 日韓大学生交流 (三倉岳)

08/20 沢登り講習 (赤ナメラ)

08/24 県民ハイキング下見 (岩国山)

08/27 新イベント検討会

09/04 インターハイ実行委員会 (県立体育館)

09/09 県民ハイキング調整会議

09/16-21 (火-日) 第6回広島県山岳・SC 連盟写真展 (NHK ギャラリー)

09/21 (日) 県民ハイキング (岩国山)

09/24 (水) 新イベント検討会

09/27-28 (土日) 中国地区自然保護指導員研修会 (芸北・八幡高原)

09/27-28 (土日) インクルーシブ・スポーツフェスタ広島 2025 (まるくる大野他)

10/02-05 (木-日) 国民スポーツ大会 (滋賀県)

10/07 (火) 県民ハイキング調整会議

10/08 (水) 第6回運営会議

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

7. 岳連短信

1. 寄贈御礼

(08/21) 三原山の会『筆影』No. 546 (9月号)

(09/01) 福山山岳会『会報』9月号

(08/19) 広島やまびこ会『やまびこ』824 (8月号)

広島大邱学生山岳交流参加者名簿

【日本側】 ○：弁当 ◎：テント泊 ●：お別れ会参加

No.	氏名	所属・役職	8/9	8/10	8/11	備考
1	山田 雅昭	会長	○		●	8/9 夜、8/11 昼
2	大田 祐介	副会長		○		沢道具運搬 ※キャンセル
3	松島 宏	副会長	◎	◎	●	買い出し・観光支援
4	豊田 和司	理事長	◎	◎	●	8/9 朝弁当運搬、キャンプキーパー
5	杉本 陽二	事務局	◎	◎	●	キャンプキーパー
6	加登本 仁	国際部長	◎	◎	●	総括・荷物車運転（ハイエース）
7	李 京子	国際部	◎	◎	●	マイクロバス乗車・通訳
8	森原 博之	国際部	◎	◎	●	買い出し・観光支援
9	森本 寛	指導部長		○		8/10 沢登り指導
10	塩田 徹	指導部	○			8/9 クライミング指導
11	荻田 純代	指導部	○			8/9 クライミング指導、夕食支援
12	法崎 正和	指導部	○			8/9 クライミング指導
13	上田 辰治		○			8/9 クライミング指導
14	寺西 洋子		○			8/9 クライミング指導
15	金村 栄蔵	指導部	◎	◎	●	8/9・8/10 指導、キャンプファイヤー
16	新山 まゆみ	指導部	○			8/9 クライミング指導、夕食支援
17	久保田 征治	指導部		○		8/10 沢登り指導
18	高田 正剛	指導部		○		8/10 沢登り指導
19	大田 由孝	指導部		○		8/10 沢登り指導
20	柳坪 宏美	指導部		○		8/10 沢登り指導
21	松林 毅			○		8/10 沢登り指導
22	小家石 美雪	指導部	○			8/9 夕食支援
23	吉岡 弥生	広大 OG	○		●	8/9 大竹駅で学生 2 名 Pick Up
24	ソン・ウヨル	吉岡さん夫	○		●	8/11 観光支援、弘樹くん(2)
25	大谷 美遥	安田 2 年生	◎	◎	●	保護者送迎
26	相川 まりな	安田 2 年生	◎	◎	●	保護者送迎
27	吉川 紗羅	安田 1 年生		◎	●	8/10 朝、寂地峽案内所まで保護者送迎
28	皆川 桜子	安田 1 年生	◎	○		8/9 大竹駅で Pick Up 8/10 スパ羅漢迎え
29	井上 さくら	安田 1 年生	◎	◎	●	8/9 大竹駅で Pick Up
30	李 尚起	大邱学連 OB	◎	◎	●	下関出迎え、
31	福原 不二雄		○			荷物車運転（軽トラック）
32	赤塚 康熙		○	○	○	マイクロバス運転

No	성명	カタカナ	性別	英文 名前	所屬	年齢	クライミング 有無	沢登り 有無
1	김동국	キム・ドングク	男	KIM / DONG KOOK	大邱慶北學生山岳連盟 専務理事	58	○	○
2	한병엽	ハン・ビョンヨプ	男	HAN / BYUNG YUP	大邱慶北學生山岳連盟 技術理事	51	○	○
3	감관재	キム・グァンジェ	男	KIM / KWAN JAE	大邱慶北學生山岳連盟 教育理事	41	○	○
4	김지범	キム・ジボム	男	KIM / JI BEOM	大邱慶北學生山岳連盟 學生理事	28	○	○
5	서경숙	ソ・ギョンスク	女	SEO / GYEONG SUK	慶北山岳會 理事	59	×	×
6	노규영	ノ・ギュヨン	男	ROH / KYU YOUNG	前、大邱慶北學生山岳連盟 會長	59	×	×
7	이원만	イ・ウォンマン	男	LEE / WON MAN	前、大邱高校學生山岳連盟 指導先生	70	×	○
8	홍양순	ホン・ヤンスン	女	HONG / YANG SOON	濟州島山岳連盟	56	○	○
9	박철홍	パク・チョルホン	男	PARK / CHUL HONG	韓國山岳連盟 青少年委員會	53	×	○
No	성명	カタカナ	性別	英文 名前	所屬	年齢	クライミング 有無	沢登り 有無
1	김영서	キム・ヨンソ	女	KIM / YEONG SEO	啓明大學YB	21	○	○
2	김채린	キム・チェリン	女	KIM / CHAE RIN	啓明大學YB	20	○	○
3	김훈표	キム・フンピョ	男	KIM / HUN PO	慶北大學YB	23	○	○
4	김민규	キム・ミンギュ	男	KIM / MIN KYU	慶北大學YB	23	○	○
5	김희은	キム・フィウン	女	KIM / HUI EUN	慶北大學YB	19	○	○
6	전종진	チョン・ジョンジン	男	JEON / JONG JIN	慶北大學YB	24	○	○
7	박정민	パク・ジョンミン	男	PAK / JEONG MIN	慶一大學YB	23	○	○
8	조형석	チョ・ヒョンソク	男	JOH / HYEONG SEOK	慶一大學YB	23	○	○
9	조예림	チョ・イエリム	女	CHO / YE RIM	嶺南大學YB	20	○	○
10	정세용	チョン・セヨン	男	JEONG / SE YONG	嶺南大學YB	22	○	○
11	장성훈	チャン・ソンフン	男	JANG / SUNG HOON	嶺南大學YB	25	○	○
12	홍건우	ホン・ゴンウ	男	HONG / GEON WOO	嶺南大學YB	25	○	○